

東京教区時報

第1143号
2009年11月15日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇11月の代禱・信施奉献先
▽笹島キリスト教連絡会のため
▽滝乃川学園のため▽障害者週
間のため(8〜14日)▽人権活
動を支える主日(11月最終主日
11・29)
◆教役者レクイエム
11月18日(水)10時半
主教座聖堂

説教 須賀義和司祭
▽執事 島田弟丸▽司祭 杉浦義
道▽司祭 坂野移文▽司祭 鈴木
光武▽主教 後藤文蔵▽司祭 西
村敬太郎▽司祭 矢崎健一▽司祭
竹田鐵三▽司祭 鈴木 勉▽司祭
栗飯原謙▽伝道師 水上春枝▽司
祭 藤井慶一▽司祭 今井 献
◇堅信受領
11月8日 三光教会
▽石川恭温▽石川佳子(三光)

今週・来週の予定

11月8日～28日

- 15(日) 聖霊降臨後第24主日
主教巡回 神田キリスト教会
- 16(月) 人権委員会: 日の丸・君が代
- 17(火) ハラスメント防止委員会
常置委員会
- 18(水) 教役者レクイエム
山手G牧師協議会
信仰と生活委員会
- 19(木) 城南G牧師協議会
- 20(金) 信徒講座: 竹内謙太郎司祭
- 22(日) 降臨節前主日
主教巡回 清瀬聖母教会
光の礼拝(主教座)
城南G教会協議会(聖アグネス)
- 23(月・休) 第109(定期) 教区会
- 24(火) 銀座朝拝会
教財務サービス委員会
- 25(水) 教区教役者聖餐式
- 27(金) 教区企画室
- 28(土) 人権委: 祈りの会(聖バルナバ)
山手G光の礼拝(聖十字)

◆とこしえの平安
10月31日 浄法寺紅子(74)
聖方ブリエル
11月3日 迫間 明(81)
聖マーガレット
11月8日 西山 キヌ(94)
三光
▽一羊会の集まり(人権を守
るための対話)「クリスチャン
と裁判員制度」について菊地牧
夫牧師(キリストの教会水戸袴
塚教会)の話。11月28日(土)10
時半〜12時半、聖バルナバ教会
ホール。席上カンパ制。照会先
TEL 042(393) 2256・
世話人森田麻理子。

最近「聖ルカ保育園が建替えられるそう
だ」、月島の地区にうわさが流れはじめて
いる。「新しく立派になるでしょうね。仮
園舎はどこに?」人々の関心度は高い。道
路から直接礼拝堂に入れる、
誰でも何時でも入っていいけ
ることになづく。「素晴らしい
事だ」。
思えば昭和29年、聖ルカ保
育園が教会付属で開設される
となると教会の信徒と共に地
域の自治体が立ち上がり協力
して事業が始まった。英国の
婦人宣教師ヘンテ先生の幼稚
園の再開と言ひ、活き活きと
奉仕する人達の姿が、今の状
況と重ねて思い出される。我々に何のお手
伝ひができるだろうか。「何かしたい」と
卒園した人達。自分達の時代は保育園の遊

《み手のなかで》

礼拝堂ができる

伊 東 愛 子

植田主教様のご理解と教区の特別
委員会を初めとする皆様のお支えに
感謝。

ヘンテ先生が伝道に熱く御自身
を捧げて灯して行かれた福音の火
種が、今再び燃え始めようとして
いる。完成までの道程はまだまだ
険しいものは避けられないと思っ
が、すべては神様のみ手の中に守
られてある事を信じて、祈りつつ
歩みを行こうと思う。月島
の地に宣教の鐘の音が響き渡る日を待ち
望んでやまない。

(月島聖公会信徒)

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

▽二つの《光の礼拝》①主
 教座聖堂活動委員会・降臨節前
 の「光の礼拝」 11月22日
 (日) 17時、聖アンデレ主教座
 聖堂。司式 植田仁太郎教区主
 教、説教 植田仁太郎教区主
 司祭(聖オルバン教会)。照会
 教区事務所宛。②山手教会
 グループによる降臨節を迎える
 タの「光の礼拝」 28日(土)
 18時、東京聖十字教会。司式 須賀義和司祭、説教 成成鐘司
 祭(聖公会神学院チャプレン)。
 照会 Ⅲ03 (3422) 103
 7・会場。

会。参加無料。照会Ⅲ090
 (9649) 0392・人権委
 員会委員長(打田)。
 ▽正義と平和協議会シンポジウ
 ム 09年度第4回協議会に先立
 つ時間帯で開催される講演会。演
 題は「命をつなぐ働きをめざして
 く私たちはなぜ野宿者支援活動に
 入ったのか」。名古屋・大阪・
 東京ですすめている炊き出しなど
 について学び合う。発題者 松本
 晋(中部教区所属信徒・笹島宣教
 センター代表世話人)、田宮紘執
 事(大阪教区・釜ヶ崎宣教担
 当)、下条裕章司祭(東京教区聖
 ヨハネ教会牧師・浅草日曜給食活
 動代表)。12月5日(土) 13
 時、浅草聖ヨハネ教会。参加費5
 百円。15時半から協議会。照会
 などは教区宣教主事宛。

《今、この教会では：》

聖愛教会
 土曜日の昼下がりにチュエキド
 (主の祈り)を韓国語で唱え、
 教室が始まります。4月から当
 教会に協力司祭としてお越しい
 ただいている、朴美賢司祭の韓
 国語教室。韓国語は勿論、韓国
 の文化についても教えていただ
 いています。話があらこちら
 に飛びながら、わきあいあいと
 した時間が流れていきます。ま
 た月2回の聖書の会も開かれる
 ようになりましたし、さらには
 毎週火曜日に司祭による突撃家
 庭訪問も行われるようになりま
 した。朴司祭がいらっしやってか
 ら、教会は今、静かな祈りの中に
 ありながらも、とても活気にあふ
 れています。(橋本優子)

【クローズアップ】 31

信徒講座(柳司祭講座) を受講して

柳時京司祭の2回の講演会
 「世間とイエスの常識」が、①
 「鳥は左右両翼で飛ぶ」②「世
 間の常識、イエスの常識」のタ
 イトルで行われた。150周年
 記念行事・礼拝の振り返りか
 ら、教会・牧会・宣教・平和等
 幅広く歴史を踏まえた熱意溢れ
 るお話に多くの示唆を頂いた。
 学びの主題の一つは「バラ
 スの大切さ」だった。ユーモア
 を交え、深くときに厳しい語り
 かけから、いくつもの言葉が胸
 深く飛び込んできた。その中の
 二つ三つ。「違う相手を否定し
 合うのではなく、両方を生かせ

る方法を考える」大切さ。バラ
 スを取るためには、「考える
 力、悩む力、探し続ける力が必
 要」と教えられた。柳司祭の恩
 師の言葉「コンパスの針は正し
 い北を指すためにいつも揺れて
 いる。揺れているときこそコン
 パスは生きている」私自身の内
 なるコンパスもイエスさまに向
 かって針が揺れ動く。
 カンタベリー大主教の言葉と
 して「神さまが造られたこの世
 界の中で、自分がその世界にど
 う関わっているかを意識してい
 ること、これこそが理性」と話
 された。この言葉も忘れない。
 最後の晩餐でイエスさまが仰
 った「…このように行いなさ
 い」の意味は、形ではなく「血
 と肉とで象徴されるイエスの働

きを思い出しなさい」と云うこ
 と。復活のイエスさまは弟子た
 ちに「あなたがたに平和がある
 ように」と云われた。「平和は
 望み祈るだけではだめ」私たち
 は「平和のために働く人になり
 なさい」と促されている。

現在韓国聖公会から派遣され
 た20名の教役者が日本で働いて
 おられると云う。日本聖公会が
 韓国宣教師に何を求めているか
 分らないことが問題と云われ
 た。恵みと課題の大きさを思っ
 た。9年という長い歳月、日本
 聖公会、東京教区、立教でのお
 働きを通して様々溢れ出る思い
 や提言を、柳司祭は言葉を抑え
 心を込めて話して下さった。
 カムサハムニダ!

池袋聖公会 松本潤子